



ミス日本みどりの大使で、シンガーソングライターでもある上村さや香さんが、和歌山県内の林業現場を中心に取材！
魅力や気づきをお伝えします

和歌山に降り立って最初に訪れたのが田辺市龍神村にある「龍神村森林組合」。もともと3つあった村内の森林組合が合併して発足したそうで、競りや製材なども含めた総合的な地域の林業を担っているそうです。

1 龍神村森林組合

案内人：組合長 眞砂 佳明さん



出迎えてくれたのは、組合長の眞砂佳明さん。組合長室に通していただいた瞬間、目に飛び込んできたのは、立派な切り株のテーブル！聞くと、200年以上の歴史を持つ杉の木の株ということでした。村の中でも一番大きな木を切り出した際、切り株も立派だったため山から出し、当時の職員さんが自作したのだそう。あまりにも大きいので、木目までじっくり見ていると、眞砂さんがこの木の年輪から龍神の木の育て方について話してくれました。



それによると、木目の詰まり方を見ると、最初は周囲の雑木の陰で育ち、それらが伐られて日当たりがよくなったことから途中で急成長し、また年を経て成長がゆるやかになる...というような、木の成長の変遷がわかるそうです。「年輪を見ると木の生き様がわかる」と眞砂組合長。なるほど、木目を見て、木の人生（木生？）を想像するって本当に素敵です！新曲のヒントにもなるお話でした。



お話の後は土場も案内してもらい、どういう木が「いい木」なのかを伺いました。年輪の部分の厚みが薄い方が製材したときにきれいに仕上がることから「いい木」として取引されるのだそう。また逆に木が曲がりやすい性質をもつ「アテ」という部分がある木はあまり好まれません。他にも、枝打ちした後にできた枝跡を「セミ」と呼ぶというのも初耳。これは形が昆虫のセミに似ているから。話を聞くと、その土地の歴史や風習がわかるのがおもしろいですね！「和歌山でも地域によってやり方や呼び方が違う」と眞砂さん。

そんな話を聞きながらも目の前を重機が行き来し、長さや太さ、色や曲がりなどに応じて木が仕分けられていきます。いたるところで細やかな「気づかい/木づかい」がなされているんだと改めて感心しました。

2 G-Works

案内人：木工作家 松本 泉さん



続いて訪れたのは道の駅「水の郷日高川龍游」の敷地内に建つ、かわいい木の建物「G.WORKS」。こちらは龍神杉をメインに紀州材を用いた家具を作る木工作家、松本泉さんの工房兼ショップです。

店内には松本さんの作品だけでなく、龍神村内にたくさんいる紙、布、陶芸などの作家さんの作品や特産品を使った食品などが所狭しと並び、見ているだけでも楽しい空間です。



松本さんの作品はどれもふくよかな丸みの特徴で、触ると驚くほど滑らか！無垢の木の温もりが見ても触れても感じられるものばかりです。実際にロッキングチェアに腰掛けたり、すべり台をすべったりして松本さんの作品を体験させていただきました！特に、ロッキングチェアの揺らぎが心地よくて最高！なんでも店内で揺られているうちに寝てしまう人もいるんだとか！でもそれもわかるくらい気持ちいいチェアなんです。背もたれと座面がつながっていて、体に触れる部分に継ぎ目がないから、体が包み込まれるような感覚なんです。それに色艶もいい。

店内をぐるりと見てまわると、かわいい仕掛けオルゴールや龍神のキャラクターが描かれた手拭いなど、気になるものがたくさん！さっそくどんだりや森の生き物が描かれたかわいいフレックシールをゲットしました！そして、私がもうひとつ気になったのは、梅アイテム。実は毎日バッグに干し梅が入っているくらい

これが家に
あれば…
(いつか
買えるように
になりたい！)



3 橋本林業

案内人：社長 橋本 歩さん



次に、ワイヤーロープを使って伐採した木を空中で運ぶ「架線集材」の作業をしている株式会社橋本林業の現場にお邪魔しました。和歌山の山は急傾斜が多いことから、ワイヤーによる運び出しが昔から普及してきたのだそう。今回お邪魔した現場は遠くに見える800m程離れた山からワイヤーを引っ張っているため、現場面積だけでも約7ヘクタール、なんと東京ドーム1.5個分ほどというからすごくないですか！？この山から樹齢75年ほどの木を切り出しているとのことでした。

眺めているとワイヤーにぶら下がった木がみるみる近づいてきます。これをプロセッサと呼ばれる作業車で4mごとにカットしていきます。橋本社長のご厚意でこの作業車にも乗らせていただきました！シミュレーションのモニターではなく、運転席からの景色は初体験です。乗ってみると意外にも中はエアコン完備で快適！貴重な体験をありがとうございました！



「僕は人生幸せとしか思ったことがない」と話す橋本歩社長は、とにかく明るい方で、林業を楽しんでいらっしゃるのがひしひしと伝わってきました。聞くと、19歳で林業の世界に入り、2社を経て独立し、今年で8年目だそうです。「楽しいだけでなく、儲かるんです。伝えたいのは、こんなええ仕事をみんなしませんか？ってこと。もっと起業する人が増えたらいい」と橋本社長。それはどうやら林業に限った話だけでなく、意欲的に自力で何か始めようという人を応援したいという心意気もあるのだそう。

実際、まだ22歳の若手ながら5年半の職歴を持つ前田さんは「自分で商売をしたい」という独立精神が強い方。「林業をしたい」ではなく「(当時調べた中で)田辺で一番給料をもらえる会社だったから」が理由で入社を希望したんだそう！副業OKなことから、今は橋本林業さんで働きながら飲食店の経営もしているというんです！コロナ禍も乗り越えて経営は順調だそうです。すごい！これぞ現在の林業という感じがします。いい面をしっかりとアピールすることで「林業のイメージを変えたい」という橋本社長。この日、確かに私の中のイメージも変わったように思います。



4 紀州備長炭窯元

案内人：炭焼き職人 原 正昭さん



和歌山には、もうひとつ特徴的な林業があると聞き、訪れたのは日高郡みなべ町にある炭焼き窯。そう、高級な炭として知られる「紀州備長炭」の窯です。こちらの窯で代々炭焼きをしている窯元の原正昭さんは炭焼き32年のベテランさんです。みどりの大使になっていろんな場所を訪れましたが、炭焼きの現場は今回が初。胸が高鳴ります。

紀州備長炭はウバメガシをはじめ、ウラジロガシやアラカシなどの樫の原木を焼いてできるそう。窯の中は真っ赤にたぎっています。「ところで、炭に白炭と黒炭があるのは知ってる？」と原さんに尋ねられました。ホームセンターなどで売っているのは「黒炭」、そして紀州備長炭は「白炭」。確かに見た目にも表面が白いのがわかります。



これは「炭化が終わった時点でどう消火するか」で変わるのだそうです。黒い炭は空気穴を全部塞いで酸素をなくすことで消火。対して、紀州備長炭などの白炭は窯に少しずつ空気を入れて1000度以上の温度でしっかり不純物を焼き尽くした後、取り出して「素灰」と呼ぶ灰をかけてゆっくりと冷ましていくんです。その結果、表面がお化粧をしたように白くなるんですね。そんな話を聞いていると、原さんが取り出したのは手作りの炭のかんざしでした。かわいらしい黄色のお花がミモザのようだなと思ったら、なんとヤマイモのお花と聞いてびっくり！さっそく付けさせていただきました！

ギターを弾きながら熱唱！



さらに、いま制作中の国産材のギターの話をした流れで、1曲披露することに。初の炭焼き窯訪問で、まさかの炭焼き窯ライブ、開幕です！炭の焼けるあたたかい空気を感じながら「森で愛ましよう」を熱唱しました。



工房にはかわいい仲間も！



また、この後には近くの山も案内していただきました。杉やひのきのような木材以外で山から取れるものや、それを加工したものを「特用林産物」と言って、備長炭もその1つ。他にもキノコや山菜、カブトムシやミネラルウォーターも特用林産物なんだそうです。

「人が入って利用しないと山はダメになる。放ったらかしにしてはだめで、適度に入って適度に使うのが大事」。そう話してくれた原さんの言葉が印象的でした。

5 白浜観光

最後に森からちょっと離れて、海沿いのまち白浜で観光も楽しんできました！南紀白浜と言えば、有名なのが白砂のビーチ「白良浜（しららはま）」！午前中に降っていた雨の影響であいにく砂がやや水を含んでいましたが、本来はサラサラの砂なんだそう。

ベストな状態ではなかったかもしれませんが、一粒一粒の繊細さは触ればわかります。やしの木に囲まれた白い砂浜のビーチが約620mも続き、その向こうにはエメラルドグリーン的大海！関西屈指の美しいビーチとして人気というのも納得の心地よさです。海水浴の季節には60万人ほどの人が訪れるそうで、この日もたくさんの方で賑わっていました。

また白浜のシンボルとして知られる「円月島」も見ることができました！海上に浮かぶ島の中央に円月型の丸い洞がぽっかり開いていることから名前がついたという円月島。この洞の部分に沈む夕陽がちょうどはまるタイミングがあるそうで、想像しただけでも美しいだろうなとわかります。今度来る時にはそのロマンティックな光景が見てみたいものです。

豊かな海を作るのは豊かな山の自然環境。そう考えると、この美しい海も、山の恵みと言えるはず。和歌山の雄大な自然、そしてその自然と共に生きる人たちに出会えた和歌山の旅でした。



林業就業・移住は和歌山で！

和歌山県では、林業就業や移住を検討している皆さんにさまざまなサポートを提供しています。きのくにフォレスタへの道のりを、一緒に歩いていきましょう！

イベント

わかやま林業体感セミナー

林業の基礎知識や和歌山の林業の特徴、和歌山県での暮らしの紹介など、『林業就業』に関わる支援をトータルで提供するセミナーです。座学に加え、先輩林業就業者・移住者の体験談を直接聞けるトークセッションや、林業就業・移住の支援制度の紹介を行います。セミナー終了後に個別相談も可能です。

わかやま林業就業相談会

「林業の基本知識や和歌山県林業の概要を知りたい」という方はもちろん、「林業体験や資格取得をしてみたい」「各種支援制度について相談したい」「求人情報・就業条件等について具体的に質問したい」等、お一人お一人のニーズに丁寧にお応えいたします。

わかやま林業就業サポート講習

林業現場・関連施設の見学や、チェーンソー・刈払機の体験・資格取得などをサポートします。

和歌山県農林大学校 林業研修部 林業経営コース

林業就業や山林経営のための専門技術や経営知識を学びます。林業に必要な15の資格も取得可能です。

ウェブサイト・SNSアカウント

わかやま
林業移住
ウェブサイト



<https://kinokuniforester.work/>



@kinokuniforester



<https://www.facebook.com/kinouniforester/>



@kinokuni2023

お問合せ先

林業全般に関するよろずご相談

▶ 和歌山県 農林水産部 森林・林業局 林業振興課
☎ 073-441-2991

林業の体験や就業に関するご相談

▶ わかやま林業労働力確保支援センター
☎ 0739-83-2022

農林大学校に関するご相談

▶ 和歌山県農林大学校 林業研修部
☎ 0739-47-4141